



# THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

山梨県甲府市中央5丁目4-11  
山梨YMCA青少年センター  
〒400-0032 TEL 055-235-8543  
FAX 055-235-8653

**国際会長主題** Mission with Faith 信念のあるミッション  
**アジア会長主題** Through Love, Serve 愛をもって奉仕をしよう  
**東日本区理事主題** 原点に立って、未来へステップ  
**あずさ部長主題** ワイズメンとして一歩前進  
**甲府21会長** 小さなことを忠実に行動

2016  
4月号

★今月の聖句★

人生の年月は七十年ほどのものです。健やかな人が八十年を数えても得るところは労苦と災いにすぎません。  
 瞬く間に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。御怒りの力を誰が知りえましようか。あなたを畏れ敬うにつれてあなたの憤りをも知ることでしょう。生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることが出来ますように。  
 (詩編 90 編 10-12 節 功刀 弘 選)

**2016年4月例会**

日時 2016年4月5日(火)19:00～  
 会場 YMCAセンター  
 司会 茅野 崢メン  
 開会点鐘 駒田勝彦会長  
 ワイズソング  
 ワイズの信条  
 会員一言 功刀 弘メン  
 会長挨拶 駒田勝彦会長  
 ハッピーバースディ  
 ワイズディナー  
 クラブ研修会テーマ「25年を顧みる」  
 ”未来への計画、何をするか“  
 i 「25年を顧みる」駒田勝彦会長  
 ii 発題：古屋秀樹メン、稲垣浩司メン  
 諸報告  
 YMCAの歌  
 閉会点鐘 駒田勝彦会長

**ワイズメンズクラブ モットー**

『強い義務感をもとう  
 義務はすべての権利に伴う』  
 『To acknowledge the duty  
 That accompanies every right』

**4月の誕生者**

(メン) 稲垣 浩司 (24)  
 (メネット) 該当なし

**3月のデータ (在籍数 20名)**

3月例会出席者数	20名
メネット5名 ゲスト4名	合計29名
3月第二例会出席者数	12名
出席率 20/20	100.00%
ニコニコ募金	13,842円
ニコニコ募金累計	48,373円

●●●● 今後の予定 ●●●●

- 4月15日(金) チャリティーラン第2回実行委員会 YMCAセンター 18時～
- 4月16日(土)～17日(日) 草津クラブDBC 合同例会 今津サンブリッジホテル
- 4月20日(水) 第2例会 YMCAセンター～若奴 18時30分～
- 5月10日(火) 例会 YMCAセンター 19時～

2015-2016 年度

4 月

会 長 挨拶

駒田勝彦 会長

ダンコウバイ (壇香梅)

別名ウコンバナは鬱金花で花がきいろであるのでつけられたそうです。

葉を付ける前に鮮やかな黄色い花を咲かせるので春を告げる山の花で目立つ存在です。

他の落葉樹はまだ芽吹かない時、明るい黄色が輝き咲き誇ります、この花に出会うとまた来年も会うために山にきなさいと誘うそんな魅力のある木です、花や木にはほのかな香りがあります。

平地には平地の、高原には高原の、山には山の春を告げる花があります。自分に与えられた場所で何かを告げる者でありたいと思いつつ時は過ぎてゆきます。

\*\*\*\*\*

4月に入り日本では新たな年度の始まりで桜の花とともに新しいスタートをしています。なんとなく温かさとともに心も締め付けられていたものがほぐれてゆくような心地になります。

しかし、大震災から5年が経過しやっと新しい校舎が出来た、新しいスタートを始められて等のニュースを聞きます。防災会館であった建物の鉄骨が残っています、その周りにはフェンスが張られ後ろにはその建物より高いと思われる土が盛られた風景が見えています。震災当時の姿はありません、工事が進んでいると思いますがでもまだ困難なおられる方もおります、一日も早い復興を祈ります。



### 3 月 例 会 報 告

書記 寺田喜長

日 時 2016年3月1日(火)19:00~

会 場 山梨YMCAセンター

出席者:相川、稲垣、荻野、小澤、鎌田、功刀、駒田、  
興水、佐藤、清藤、茅野、寺田、野々垣、奈良田、廣瀬、  
古屋、松村(豪)、松村(禎)、薬袋、山縣、(20名)

メネツト:相川、清藤、廣瀬、松村(仁)、山縣、(5名)

ゲスト:澤田 明(卓話者)、中田久仁、中山定雄、

餐 場 裕(4名) 合計 29名

全メンバー、メネツト、ゲストを加え多数の方の出席を頂き、会長の点鐘で開会、鎌田メンの一言では県外で歯科医をされていた息子さんが甲府に戻り開業されると喜びを話されました。ゲストの、餐場、中山両氏は入会前提の出席との紹介が有り、続いて3月2日生まれの松村豪夫メンの?歳をお祝いし、賑やかにワイズディナーを楽しみ、ゲスト卓話を拝聴しました。ゲスト卓話者共同通信社甲府

支局社会部記者 澤田明(メイ)氏が「共同通信社の働きと大村博士のノーベル賞受賞同行記」と題し講演し、紙面を持たない通信社の働きと、大村博士のノーベル賞受賞同行記者としての重要な業務の大切さ、大変さ、自分が配信した記事原稿が掲載した新聞社ごとに伝え方が種々有ること、日本のマスコミは「ジャパン、パパラッチ」と外国メディアから呼ばれる程有名な過激取材集団であること等を聞かせて下さり、そして何より大村博士の素晴らしい人間性に触れた心に残る取材旅行でしたと女性記者としての観点も織り込まれた講演でした。余談ですが、共同通信社の近年の新規採用者の半数は女性だそうです。下記の議題を協議し21時閉会しました。

協議事項

- 1、YMCA 評議会から要請のクラブ代表常議員選出について・・・再検討とする
- 2、5月ゲスト卓話者選考・・・候補者3名が有り興水メン推薦の山梨大学教授柳田藤寿氏にお願いし、次年度のゲスト卓話者として他の2名の方を候補者とする。
- 3、東日本区大会(6/4~5)の協力要請について・・・6月4日に受付等7名の応援要請が有り、4月例会まで

に確認。

4、4月16、17日の合同例会参加者・・・今日現在、駒田、相川、寺田、葉袋、松村(禎)、松村(豪)、野々垣の7名確定、

## 会 員 ペ ン リ レ ー 小 さ な 力 を 結 集 し て

鎌田 巖メン

私達歯科医師は歯科医師という職業を生かし、社会貢献をしています。この運動がワイズメンの活動に何らかの役にたつのであれば幸いですので、歯科医師会の広報を参考にして、報告します。

“TOOTH FAIRY”と言う歯科医師だからできるユニークな活動です。この活動は、役目を終えた撤去冠を再生し、新しい貴金属に生まれ変わらせ、その資金でめぐまれない子供たちの支援活動をしています。

西洋では抜けた乳歯を枕もとに置いて寝ると真夜中に歯の妖精“TOOTH FAIRY”がこっそりその乳歯をもらいに来て、お礼にプレゼントと交換していくと言いつたわれています。

歯の治療で、役目を終えた金属も、子供たちを喜ばせる素敵なプレゼントにかえられたら、という思いからこのプロジェクトは始まりました。

治療上撤去した不要な冠などの金属を寄付して、その中に含まれる貴金属(金、銀、パラジウム、プラチナ等)をリサイクルした資金で、貧困で重い病気と闘う子供たちを支援するプロジェクトです。この活動に共感し協力している6,000人の歯科医師と患者様で運営しています。

寄付金は100%子どもたちのために使われます。本プロジェクトに係る日本財団スタッフの人件費や、広報費、撤去冠の運搬費用などの経費は全て日本財団が負担し、換金された資金はすべて支援の現場での活動費として大切に活用しています。金属の分析精製に係る手数料及び、支払消費税は、金属の換金額から差し引かれる。

役目を終えた金属→生まれかわり  
→子供たちに「夢」「希望」を

2016年1月現在、  
参加歯科医院累計 6,143 医院  
寄付された貴金属 3,89,728 kg  
累計寄付金額 1,002,687,164 円 となり、  
“TOOTH FAIRY”の寄付金は10億円になりました。

使用目的は途上国の子供たちや、重い病気と闘っている子供たちの支援

- 1 スクールプロジェクト  
ミャンマー学校建設プロジェクト  
勉強をしたいと願うミャンマーの子供たちに学校を建設する。 18校 建設 6校 建設中
- 2 チャレンジキッズプロジェクト  
小児がん専用化学療法ハウス建設、夢のキャンプ開催、難病児とその家族へ旅行をプレゼント、実務者ネットワーク会議等  
「小児ホスピス」プロジェクト  
難病や重い障害と闘う子どもたちとその家族を受け入れる施設「海の家」(神奈川県大磯町)  
「小児がん専門施設」プロジェクト  
小児がん専用の化学療法ハウス「チャイルド・ハウス」の建設(兵庫県神戸)のプロジェクトを行っています。  
(公益社団法人 日本歯科医師会 日歯広報より)

増加する難病と、脆弱な支援  
医療の進歩に伴い、これまででは助けることができなかった生命が助かるようになりました。しかし、その一方で呼吸器などの機器が手放せず、常に医療的ケアを必要とする子どもたちの数は、日本国内に約20万人と言われていいます。難病や重い障害を抱えながらも日々成長を重ねる子どもたちにとって、入退院により学校や友人たちから切りはなされる生活は、辛く心細いものです。また、家族も365日24時間体制の看護に加え、急変することも多い子どもの病状に、不安と緊張の中で過ごしています。病や死と隣り合わせの生活を送る子どもや家族の負担は、身体的、精神的、経済的にも想像を絶するものです。「病気のことを誰にも言えず、孤独だと感じる」「今年は子どもの誕生日を祝えたけれど、来年の誕生日が来るかわからない」といった悩みを持つ彼らへの支援やレスパイト(休息)ケアを必要とされながらも、国内での整備は欧米などと比べ、非常に脆弱です。

“TOOTH FAIRY”は子どもたちの生活の質(クオリティオブライフ)の向上と家族もサポート」を念頭に、難病の子どもと家族が豊に生きることが出来る社会を目指しています。日常的な支援では、デイケアなどを提供する施設の整備や、訪問型のレスパイトサービスを行っています。また医療器具を伴う移動により外出が難しい患者や家族に、大自然の中での家族キャンプや家族全員のディズニーランドへの招待など、特別な体験を提供する支援も行っており、日常的な支援と子どもたちの夢を叶える支援の両面からサポートしています。

